HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	社会科「教師力」の養成 : 二人の実習生の現場実習と教育実習を通じた職能発展
Author(s)	齋藤, 真宏
Citation	第58回全国社会科教育学会. 平成21年10月10日～平成21年10月11日. 弘前大学、青森県弘前市.
Issue Date	2009-10-11
Doc URL	http://hdl.handle.net/2115/39976
Type	conference presentation
File Information	saito_JERASSc58.pdf

Instructions for use

Hokkaido University Collection of Scholarly and Academic Papers : HUSCAP

社会科「教師力」の養成
～二人の実習生の現場実習と教育実習を通じた職能発展～

第58回全国社会科教育学会
（2009.10.11　於　弘前大学）

旭川大学教職課程
齋藤　真宏

１．はじめに
教育実習生の実習ノートから

「3週間の授業参観や授業実習を通して、本当にたくさんの経験を勉強することができました。（略）今回の教育実習を通して、あらためて教師になりたいという気持ちになることができました。とても大変な仕事であるし、採用されることも難しいですが、何年かけてでもなりたい、そう思えるやりがいのある仕事だと思います。これからも勉強を続け、必ず、また学校で働けるようにしたいです。」（学生Aの実習日誌から）

2．求められる教師の資質能力

文部科学省「魅力ある教員を求めて」より

(1)　いつの時代にも求められる資質能力

- 教育者としての使命感
- 人間の成長・発達についての深い理解
- 幼児・児童・生徒に対する教育的愛情
- 教科等に関する専門的知識
- 広く豊かな教養

これらに基づいた実践的指導力

(2)今後特に求められる資質・能力

①地球的視野に立って行動するための資質能力

② 変化の時代を生きる社会人に求められる資質能力

③ 教員の職務から必然的に求められる資質能力

３．実習において磨く力

教育実習は人間にかかわる専門職として学習と経験を積み重ねていくための基礎的能力を実践経験を通して磨く場である。

期待される学び

- 教師としての学び
- 社会科教師としての学び

４．教師としての学び

① 教育観

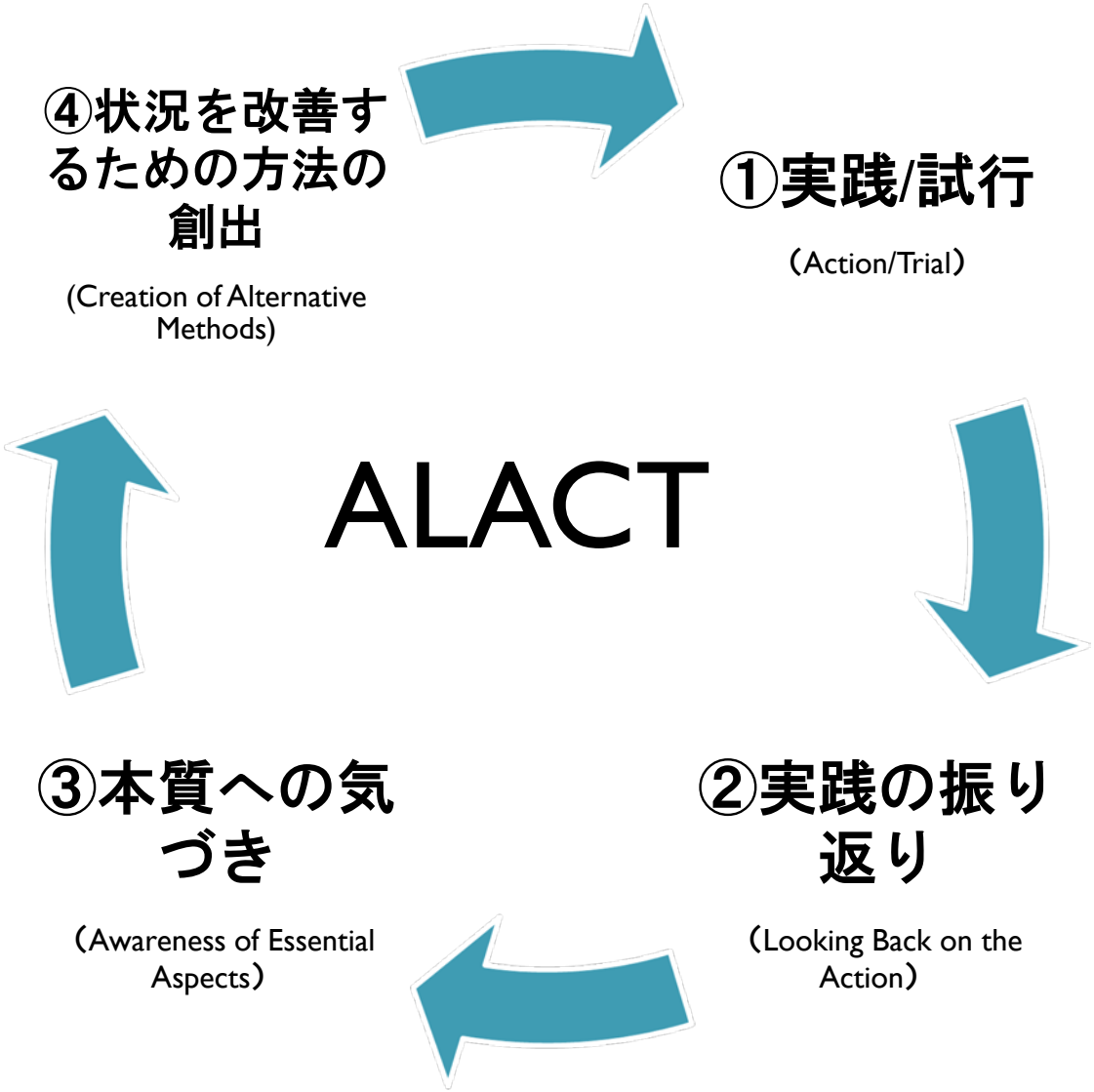
② 教師としての使命感・倫理観（＝教師観）

③ 自己教育力（変わる力）

「古い衣を脱いで新しい衣を着る力」（山崎、2006）

→省察的実践へ

Korthagen（1985）の総合的循環型省察的実践



5.　社会科教師として学び

社会科教師としての固有の学び

より高い社会科授業構成能力の獲得

「よき社会科教師を育成するためには（略）より質の高い社会科の授業を創造する力を、すなわち、社会科授業構成能力を育成しなければならない」（松尾、p.167）

「社会科教員は内容のスタンダードとともに教育的スタンダードを同時に満足させる力量が求められているのである」（溝上、p.29）

- 授業知（pedagogy content knowledge ）
- 教科知（subject matter knowledge）

社会科教員の「内容のスタンダード」

① 文化と文化の多様性の知識、教える能力、意欲
② 歴史を過去と現在の継続性と変化の知識、教える能力、意欲
③ 地球上の人々の生活とその土地、環境の関連性の知識、教える能力、意欲
④ 社会と個人の発展、アイデンティティの関連性の知識、教える能力、意欲
⑤ 組織、集団と個人の関係性に関する知識、教える能力、意欲
⑥ 個人の権利と社会的権力、政府もしくは自治体の役割と統治に関する知識、教える能力、意欲
⑦ 社会における生産、流通、消費の流れに関する知識、教える能力、意欲
⑧ 社会、私たちの生活と科学技術の発展に関する知識、教える能力、意欲
⑨ 国際社会について例えば民族紛争、国家間の協力体制、相互依存の知識、教える能力、意欲
⑩ 民主主義社会における公民の理念と実践、例えば個人の尊厳、自由、平等についての知識、教える能力、意欲

(National Council for Social Studies, 2002)

(1)授業知
(Pedagogical Content Knowledge)

専門職としての教師とその分野の専門家を分ける知

「未熟な教師は伝えることと説明することの区別がつかない。それは授業知が発達していないからである」
（Toh, Ho, Chew and Riley, 2003）

- 教科知を基に、生徒との対話を通して授業を組み立てる力
- 生徒理解力

(2)教科知
（Subject Matter Knowledge）

(1)生徒が社会科の授業を通じて獲得すべき知識

① 事実関係的知識(特に説明的知識)

② 価値関係的知識

(2)市民として獲得すべき知識

①暗黙知：教養／人間理解

②科学知

③創造知

（岩田、pp.65-69）

６．二人の実習生の現場経験

（１）現場実習（3年時）

- 現場実習実施校：公立中学１校、私立高校１校

※いずれも実習生の母校ではない

- 実習内容：授業参観および授業補佐（中学社会、地理）
- 実習時期：7月（学生Aは9月）～2月

※大体週1回のペース

（２）教育実習

両名とも4年時の6月に母校の中学校で三週間

（３）現場実習（4年時）

実習生Bのみ参加（私立高校で地理の授業補佐）

7．研究手法

実習日誌および省察レポート、学習指導案より学生の学びを抽出し「教師としての学び」と「社会科教師としての学び」に分類

※特に実習日誌を重視し、同時に演習と個別指導のトランスクリプト、フィールド・ノートを確認のため使用した。

実習日誌の重要性

「近年、実習日誌は、実習生にとって自身の発展と指導法の向上を振り返り、分析し、批判するための道具として大学の教職課程で多用されてきている。」 (Maloney & Campbell, 2002)

実習日誌は実習生と大学教員の対話的学び合いの機会

- 実習生にとっては現場における実践的な学びを明確化
- 大学教員にとっては実習生の学びに触れる機会

８．学生Aの学び

学生A の背景

- 小中高でそれぞれ「いいなと思える」先生との出会いがあり、なんとなく教師希望となる
- 特に社会科が好きなわけではない。

→教師になれるならばどの科目でも構わない。

- いわゆる「公立進学校」出身
- 「授業における教科知識へのこだわり」

当初の授業観

「どのように知識を詰め込むか」

(1)教師としての学び（31件）

① 社会人としてのマナー（4件）

遅刻および忘れ物などだらしない行動が、担当の先生や生徒に迷惑をかける

② 生徒とコミュニケーションをとるための工夫（5件）

「心がけ」を見出す

- 最初の一声
- 生徒の名前と顔を覚える
- 部活動に参加する

③実習生としての意識（7件）

実習生として「何を学ぶのか、学ばなければいけないか」という目的意識を持って実習に参加する

④ 教師観（15件）

「教師の自己満足」ではなく、生徒とコミュニケーションをとりながら「生徒が主体となる学び」を提供しなければならない

学生Aの省察的実践

ある日の10分授業

- 実践：ガンジス川での水浴、牛を世話する人の写真を生徒たちに配布
- 実践の振り返り：生徒たちは写真をちらっと見るだけで何の関心も示さない。
- その場の本質への気づき：言及なし
- 状況を改善するための方法の創出：発問の用意「この写真は何だろう？」
- 試行／実践：生徒にプリントをやらせて、指名して答えさせる

→生徒との相互交流が生まれた

(2)社会科教師としての学び（85件）

①授業知（81件）

授業を組み立てる力（66件）

- 生徒が理解するための工夫

説明や板書では平易な言葉に置き換える
自分の体験談を交えるなど具体的な例を出す
資料の活用（生徒とのコミュニケーション）
生徒観察をして、状況を把握する
課題を与えるなどで生徒を授業に参加させる

- 生徒に考察させる時間を与える

生徒を指名して考えさせる
教師は生徒の意見を大切にする

生徒を理解する力（15件）

- 多様な生徒の存在への気づき
- 積極的な生徒の陰に、消極的な生徒がおり、その生徒にも教師は視点を当ててあげる必要性がある
- 生徒は細かいところまで質問をしてくる

②教科知（4件）

教科知識不足の気づき

「うわべだけの知識ではなく、より深い知識を身に付けられるように努力します」（2007.11.28）

本時の目標が極めて抽象的

例）日本が少子高齢化になった原因を考え、これからの課題について考える

（教育実習研究授業の指導案　2008.6.18）

生徒が獲得すべき知識が不明瞭である。実習生本人も何を生徒に伝えるべきか絞り切れていない。

9.学生Bの学び

学生B の背景

- 中学で理想の先生（社会科）に出会い、教師を希望する。

「自然と生徒を援けることのできる先生になりたい」

※社会科教師希望というより、教師希望

- いわゆる「公立中堅校」出身
- 自分の教師希望に周囲は猛反対

→「子どもと共に困難を乗り越える先生」

(1)教師としての学び（29件）

① 職場の構成員としてのマナー（1件）

出勤時、退勤時には先生方がどんなに忙しそうにしていても一言挨拶をする

②「子どもたちとの壁」を乗り越えるための工夫（10件）

- まず自分が大きな声を出す
- 清掃を一緒にするなど積極的に粘り強く関わる

③実習生としての学び（4件）

- 実習生として失敗を恐れていたが、できることを精一杯全力でやることが大切
- 自分に教師としての資質があるかが不安だったが、生徒がそれを払拭してくれた

④教師観（14件）

- 授業観の発展

「授業は生徒たちの能動的な学習を組織し、認識を深め技能を高めていく営み（略）そして、自己学習・自己形成を培うために授業と言うのが存在している」（教育実習１レポート）

- 自分らしさを生かす
- 「広い視野」を持って生徒に接する
- 失敗したら気持ちの切り替えが大切

学生Bの省察的実践

- 実践：生徒に話しかけたくても話しかけられない。ただその場にいるだけ
- 実践の振り返り：生徒がこわいから話しかけられない
- その場の本質への気づき：言及なし
- 状況を改善するための方法の創出：朝、校門に立って「おはよう」と声をかける
- 試行／実践：生徒登校時の挨拶

→とにかく大きな声を出して、粘り強く生徒に関わるようになる。

(2)社会科教師としての学び（82件）

①授業知（77件）

授業を組み立てる力（62件）

- 生徒に学習内容に興味関心を持たせる
- 生徒が必要としている知識（受験知識も含む）を提供する
- 「このぐらいわかるだろう」という思い込みを排除
- 視聴覚教材も含めた資料の活用
- 生徒観察とそれに基づいた事前シュミレーション
- 発問の吟味

生徒を理解する力（15件）

- 生徒は多様であり、また席替えや天候など情況によって変化するために、生徒観察を大切にする
- 発問に積極的に答える生徒と答えない生徒がいる

② 教科知（5件）

教科知識の不足を実感

「一年生って言うのは二年生、三年生と違ってとにかく発言が多いから、そこからいいものを少しずつ掴み取ってあの・・・授業に生かしているけど、困ることはやっぱしいろんなことを聞くから、あたし、そこをまとめるのも大変とかって言ってたんですよ。なんでやっぱしそういう状況に対応できるってことはやっぱし知識を持っていれば、ある程度余裕が持ててこれはこうなんだよ、とか・・・対応できるじゃないかなって（略）」

（2008年2月18日演習のトランスクリプト）

本時の目標が極めて抽象的→教科知識の不足

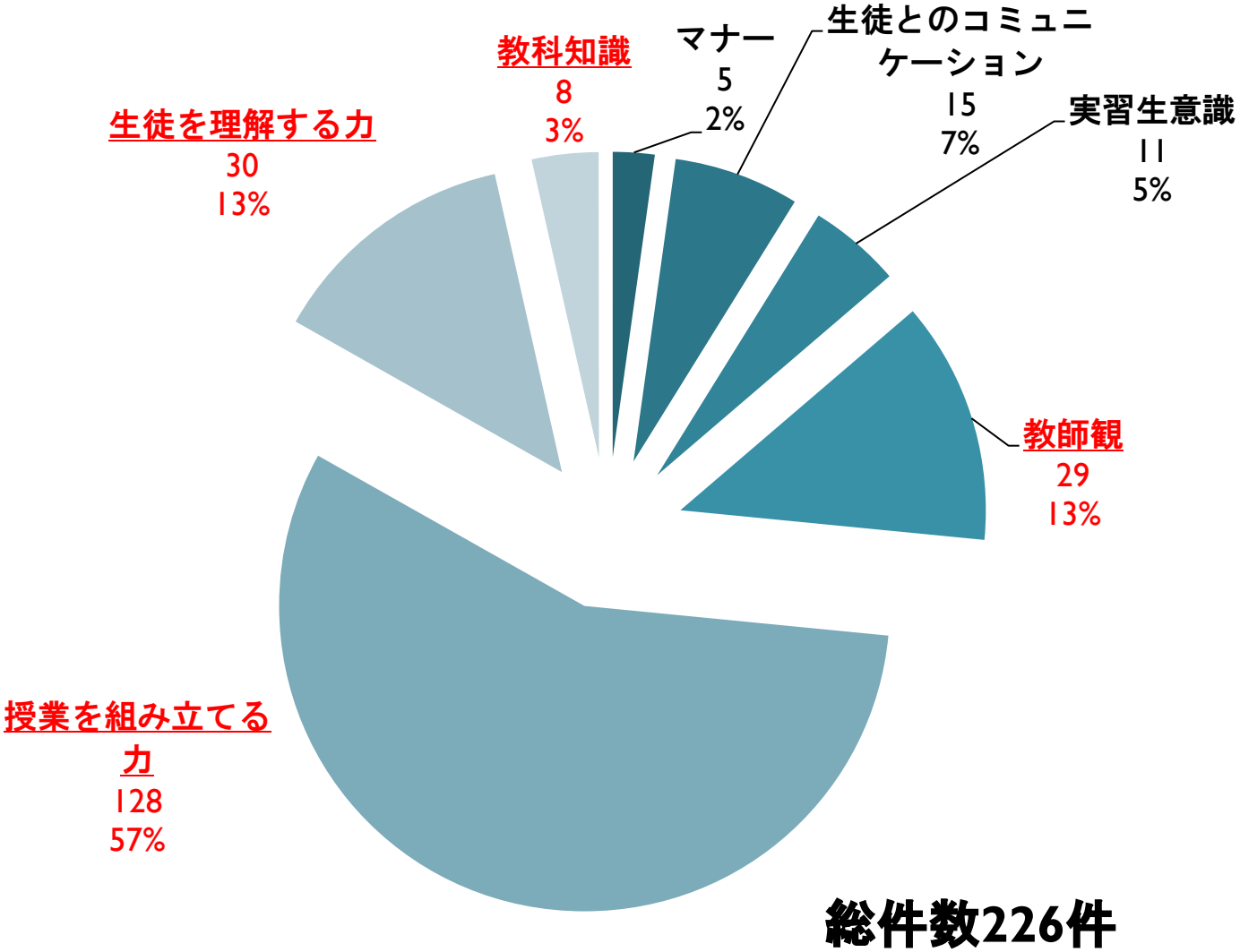
例）

- 勘合貿易の背景には倭寇の取り締まりという課題があった事を理解する
- 東アジアの貿易体制を把握する

（教育実習研究授業　2008.6.18）

生徒の獲得すべき知識が何かという事が漠然としている。実習生本人も本時の目標を押さえていないのではないか？

11. 学生AとBの学び



総件数226件

学生AとBの省察的実践

二人の学生はそれぞれ総合的、循環的な省察的実践を行っているが、Korthagenの主張する5段階すべてを踏まえたものは見られなかった。しかしその後の発展は生まれている。

12.まとめ

① 教師としての学びについては、教師観の発展と自己学習力の発展は見受けられる。一方で教育観の発展は見受けられない。

② 省察的実践は不十分ではあるが、一定の効果は見受けられる。

③ 社会科教師としての学びについては、授業知の大きな発展を認めることができたが、一方で教科知については「教科知不足の自覚」にとどまる。

④ 教科知の発展が十分でない理由は、「知り、理解し、考察／探求し、行動する」という学習過程を経験していないことである。

13.本研究からの学び（仮説）

教育観と教科知の未発達の原因

「〈過程としての学習〉の歪みに起因する『つまずき』」（藤田、2003）

→学びの「脱構築」

① 教育学の諸理論を実習生の教育観の結びつけ、それぞれの教育観の発展を図る機会の拡充

② 教科知の発展のために、社会科の「学び方」を学ぶ機会の拡充

参考文献リスト

- 藤田英典（2003）.「学習の文化的・社会的文脈」佐伯胖、藤田英典、佐藤学編『学びへの誘い』東京大学出版会
- 岩田一彦 (2002).『社会科固有の授業理論30の提言　総合的学習との関係を明確にする視点』明治図書
- Korthagen, F. (1985). Reflective teaching and pre-service teacher education in the Netherlands. *Journal of Teacher Education, 36(5)* , 11-15.
- Maloney, C., & Campbell, G. E. (2002). Using interactive journal writing as a strategy for professional growth. *Asia-Pacific Journal of Teacher Education, 30*, 39-50.
- 松尾正幸 (2001).「社会科教師とその教員養成の研究」全国社会科教育学会,『社会科教育学研究ハンドブック』明治図書
- 文部科学省 (2003).「魅力ある教員を求めて」参照日: 2009年9月25日, 参照先: http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/miryoku/03072301/001.pdf
- 溝上泰 (2003).「社会科教育実践学の構築に向けて」 溝上泰 (編) 『社会科教育実践学の構築』 明治図書.
- National Council for Social Studies. (2002). *National Standards for Social Studies Teachers, Vol. 1*.
- Toh, ,. K., Ho, B. T., Chew, C. M., & Riley, J. P. (2003). Teaching, Teacher Knowledge and Constructivism. *Educational Research for Policy and Practice* , 195–204.
- 山崎準二 (2006).「第7回外国人児童生徒教育フォーラム（2006.10.7）資料」於津田ホール.